

分類名 [病害虫]

10 国内で初めて確認された園芸作物の新病害虫 (平成2年～平成9年)

園芸試験場

1) 取り上げた理由

宮城県内の野菜6作物（ソラマメ，セリ，リーキ：2病害，パセリー，ツルムラサキおよびニンニク）と花き2作物（ホワイトレースフラワー，ブルーレースフラワー）に，原因不明の9種類の病害が発生した。病原菌の同定を行ったところいずれも，国内での発生が未確認の病害であったため，参考資料とする。

2) 参考資料

(1) 野菜に発生した新病害

	確認日	病名	病原菌
a	H2/ 3	ソラマメ黒腐病（仮称）*	細菌 <i>Pseudomonas viridiflava</i>
b	H7/ 6	セリ葉腐病	糸状菌 <i>Pythium afertile</i>
c	H7/ 6	リーキ黒斑病（仮称）*	糸状菌 <i>Alternaria porri</i>
d	H8/ 7	リーキ葉枯病（仮称）*	糸状菌 有性世代: <i>Pleospora tarda</i> 無性世代: <i>Stemphylium botryosum</i>
e	H9/10	パセリー灰色かび病（仮称）*	糸状菌 <i>Botrytis cinerea</i>
f	H9/ 7	ツルムラサキ灰色かび病（仮称）*	糸状菌 <i>Botrytis cinerea</i>
g	H5/ 5	ニンニク黒斑病（仮称）*	糸状菌 <i>Alternaria porri</i>

(2) 花きに発生した新病害

	確認日	病名	病原菌
h	H9/12	ホワイトレースフラワー灰色かび病（仮称）*	糸状菌 <i>Botrytis cinerea</i>
i	H9/12	ブルーレースフラワー灰色かび病（仮称）*	糸状菌 <i>Botrytis cinerea</i>

※ 注意事項

新規病害を命名する場合，学会，研究会等に発表し，論文または講演要旨として掲載後に日本植物病理学会「日本有用植物病名委員会」に申請する。審査後に日本植物病理学会報の病名目録に掲載されるまでは，正式に病名として認知されないため仮称として取り扱われる。

3) 対象地域等

県下一円

4) 特に留意すべき事項

表-1，表-2を参照

5) 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究機関及び担当部科名 園芸試験場 環境部 病害虫科
 (2) 研究課題名及び研究期間 地域農業改良普及センター及び農家等からの病株の持ち込み診断依頼
 平成2～9年

(3) 参考データ

表-1 野菜に発生した新病害

	病名	発生時期	病徴	留意点
a	ソラマメ黒腐病	3月～5月	越冬後のソラマメに発生する。一部の茎にのみ発病し、地際部が黒変して枯死または萎縮する。 軽症：茎がやや萎縮し、着莢するが莢数は減少する。 重症：株全体が黒変後枯死する。	秋播き及び秋移植栽培圃場で発生が多いので、発生圃場では、春移植栽培にする。
b	セリ葉腐病	6月頃 9月～11月	葉の上部が暗～黄褐色に垂れ下がり、軟化腐敗する。 軽症：葉柄の上部がくびれてしおれる。 重症：葉全体が軟化腐敗する。	発生圃場では、親株養成圃場として使用しない。
c	リーキ黒斑病	栽培全期間	葉、葉鞘、花梗に発生する。葉上では、淡紫色～暗紫色、長楕円形～紡錘形後に同心輪紋状に淡黒色～黒褐色のかびが密生する。	肥料切れにならないように施肥管理に注意する。
d	リーキ葉枯病	栽培全期間	葉、葉鞘部に発生する。長さ3～5cmの黒褐色～黒色、長楕円形～紡錘形の病斑となり、後に周縁部が黄化し枯死する。	肥料切れにならないように施肥管理に注意する。
e	パセリー 灰色かび病	栽培全期間	葉、葉柄部が黄褐色～褐色し、淡灰褐色のかびを密生する。	施設内が多湿にならないように換気に注意する。
f	ツルムラサキ 灰色かび病	栽培全期間	葉、葉柄部が暗緑色、水浸状軟化腐敗する。また、褐変後、淡灰褐色のかびを密生する場合もある。	施設内が多湿にならないように換気に注意する。
g	ニンニク黒斑病	栽培全期間	葉、葉鞘、花梗に発生する。葉上では、淡紫色～暗紫色、長楕円形～紡錘形後に同心輪紋状に淡黒色～黒褐色のかびが密生する。	ニンニク葉枯病に準じて防除する。

表-2 花きに発生した新病害

	病名	発生時期	病徴	留意点
h	ホワイトレスフラワー 灰色かび病	栽培全期間	花、葉、茎に黄褐色～褐色し、淡灰褐色のかびが密生する。	施設内が多湿にならないように換気に注意する。
i	ブルーレスフラワー 灰色かび病	栽培全期間	花、葉、茎に黄褐色～褐色し、淡灰褐色のかびが密生する。	施設内が過湿にならないように換気に注意する。

(4) 発表論文等

- a : 日本植物病理学会報 第62巻 第6号 P604(講要)平成8年
 b : 日本植物病理学会報 第61巻 第6号 P644(講要)平成7年
 c : 日本植物病理学会報 第62巻 第6号 P604(講要)平成8年, 北日本病害虫研究会報 第48号 P109-112(平成9年)
 d : 日本植物病理学会報 第63巻 第6号 P492(講要)平成9年, 北日本病害虫研究会報 第48号 P218(講要)平成9年
 e : 第51回北日本病害虫研究会発表会(平成10年), 北日本病害虫研究会報 第49号投稿中(平成10年)
 f : 第51回北日本病害虫研究会発表会(平成10年), 北日本病害虫研究会報 第49号投稿中(平成10年)
 g : 日本植物病理学会報 第63巻 第3号 P200(講要)平成9年, 北日本病害虫研究会報 第48号 P109-112(平成9年)
 h : 第51回北日本病害虫研究会発表会(平成10年), 北日本病害虫研究会報 第49号投稿中(平成10年)
 i : 第51回北日本病害虫研究会発表会(平成10年), 北日本病害虫研究会報 第49号投稿中(平成10年)